

## 第55回試験研究成果発表会（野菜Ⅰ）発表概要

【日時】平成29年11月28日（火）13:00~15:50

【会場】いいおかユートピアセンター（旭市横根 1365-25）

### 発表1 成果発表（13:10~13:35）

イチゴ炭疽病防除のための効率的検査法の開発

生物工学研究室 中田 菜々子

イチゴ苗が炭疽病に感染しているかどうかを調べる遺伝子検査技術を改良し、コストや労力を削減しました。この検査によって炭疽病が潜在的に感染している親株を見つけ、4月中旬までに除去することで、2次感染を抑えられることも明らかになりました。検査の概要を発表します。



DNA抽出作業

### 発表2 成果発表（13:35~14:00）

良食味黒皮種なしスイカの選定と果皮の日焼け対策

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 千吉良 敦史

食味が今ひとつと言われていた種なしスイカですが、近年は良食味の品種が育成されています。一方、黒皮スイカは一般の縞皮のものとは比べ、販売時に差別化がしやすいというメリットがあります。そこで、食味のよさや栽培のしやすさも加味して、東総地域における黒皮種なしの優良品種を選定しました。また、黒皮スイカで問題となる果皮の日焼け対策についても併せて試験しましたので、結果について紹介します。



「ブラックジャック」

**発表3** 成果発表 (14:00~14:25)

転炉スラグの施用による土壌 pH 調整がスイカ及び後作品目の生育及び収量に及ぼす影響

野菜研究室 木村 美紀

ホモプシス根腐病対策の1つとして、被害軽減効果が期待されている転炉スラグを用いた土壌 pH 調整が、スイカ及び後作品目（ニンジン・バレイショ・ダイコン）の生育及び収量、品質に及ぼす影響を試験しました。その結果、いずれの品目も収量への影響はありませんでしたが、スイカの MgO 吸収及びニンジンの出芽率、バレイショそうか病発生程度に影響が見られました。



転炉スラグを施用したスイカ栽培

**発表4** 成果発表 (14:40~15:05)

12月どりブロッコリーの優良品種と栽培法

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 竹内 大造

ブロッコリーの秋冬どり栽培は、近年の米価低迷等の影響により水田転作畑等での栽培が増加しつつあります。しかし、12月以降が収穫期となるものは、低温の影響により花蕾の腐敗や異常着色が発生し、収量・品質が低下しやすい問題があります。そこで、「第64回千葉県野菜品種審査会」において低温期でも安定生産できる優れた品種の選定を行いましたので、栽培法と併せて紹介します。



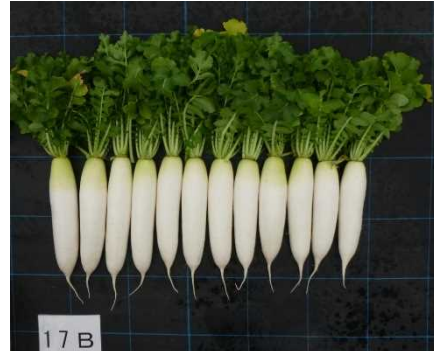
品種審査会の様子

**発表5** 成果発表 (15:05~15:25)

3月どりトンネルダイコンの優良品種の選定

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 千吉良 敦史

11月に播種し、3月に収穫するトンネル春どりダイコンの栽培では、生育期が低温のため、肩こけ、短根及び首汚れ等の障害が発生しやすく問題になっています。そこで、この作型を対象に「第64回千葉県野菜品種審査会」を開催し、これらの障害の発生しにくい優良品種の選定を行いました。審査結果や選定した優良品種の特性について紹介します。



ダイコンの優良品種

**発表6** 情報提供 (15:25~15:45)

7~8月出荷貯蔵用タマネギの栽培法

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 町田 剛史

近年、7~8月出荷の貯蔵用タマネギの需要が高まっており、県内でも一部の地域で産地化の動きが見られています。しかし、生育後半に当たる梅雨期の天候を大きく受け、球の肥大不良や病害の多発により生産が不安定になりやすいことが知られています。そこで、この時期の出荷に適した播種期や品種、収穫物の貯蔵性などの情報を提供します。



貯蔵中のタマネギ